

入試分析 理科

【総評】細かい知識が不要になり例年よりかなり易しい

問題形式・出題学年割合に例年から大きな変化はなかったが、細かい知識が必要な問題がほとんどなく、解きやすい問題が多かった。

■出題形式■

問1～問4:小問集合(物理・化学・生物・地学の分野毎)

例年同様の、問1「物理」、問2「化学」、問3「生物」、問4「地学」と各分野からの独立した小問(一問一答)の出題。教科書レベルの知識を問う問題が今年は多く、例年より正解率が高いと思われる。

問5:物理分野

水温を上げる発熱の実験からの出題。(ア)～(ウ)は定期テストにもよく出題される基本的な問題ばかりでかなり解きやすかったと思われる。

問6:化学分野

イオン化傾向・化学電池の問題。イオン化傾向を確認する実験のやり方は見慣れないが、それぞれの問題は基本的なものばかりであった。

問7:生物分野

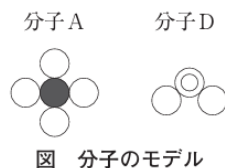
ネギをつかった呼吸・光合成の実験からの出題。(ア)は基本的な知識の確認問題であったが、(イ)～(エ)は思考力や計算が必要でやや難しかった。

問8:地学分野

太陽に関する問題。やや細かい知識や思考・計算が必要な問題が多く、難易度は例年通りで解きにくかった。

実際の問題にチャレンジ! 問2(ウ) モデル図の化学反応式

次の化学反応式は、分子Aと分子Bが反応して分子Cと分子Dができる化学変化を表しており、 $\boxed{A} \sim \boxed{D}$ にはそれぞれ分子A～Dの化学式が入る。また、図は分子Aと分子Dのモデルを表したものであり、これらの分子を構成する3種類の原子のモデルを●, ○, ◎で表している。このとき、分子Bと分子Cのモデルの組み合わせとして最も適するものを選びなさい。



《入試に向けての学習のPOINTとアドバイス》

① 一問一答の勉強は中3の夏までに!

- 基礎知識の暗記は大前提。高得点を狙いたければ細かいところまで覚えよう。
- ただし、やみくもに覚えるのではなく、「なぜそうなるのか」という根拠もセットで暗記。

② 表の読み取り&思考と知識の組み合わせ

- 表やグラフから読み取った情報を、学年・科目を跨いだ知識の組み合わせで解く。初めて見るような難しそうな問題でも原理・原則に立ち返って解く。